

理学療法 (PT)

病気やケガで身体に障害を持ったり、身体機能が低下した人に対し、身体機能や立ち座りや歩くといった生活に必要な基本的動作能力の回復・維持をはかるための治療を行います。



亜急性期から生活期まで

病院では、いわゆる教科書通りのリハビリとはいかず、患者様の全身状態や疾患を考慮した上で、社会的背景にも目を向け、その人に合ったプログラムを立案してリハビリを提供しています。疾患や年齢によっては、これ以上良くならなかつたり徐々に悪くなつたりする人もいます。その中で何を指すか—難しいですが、そこにやりがいを感じます。

東神戸病院は地域密着型。亜急性期から回りハ、在宅、終末期まで、包括的にリハビリを提供しているのも魅力です

回復期・2018年入職

理学療法士



回復期・2020年入職

理学療法士

患者様のために

人と関わる仕事・人の役に立つ仕事につきたいと考え、理学療法士を選びました。ただ、社会人として働き始め、学生の頃に描いていた理学療法士像は変わりましたし、生命に関わるプレッシャーを感じることもあります。

日々臨床現場で働く中で、分からないことがたくさん出てきます。その都度、必要な知識と技術を身に付け、対応しているところです。学ぶ過程は大変ですが、模索しながら評価・治療を積み重ね、その結果、患者様の良くなっていく姿を見られるのが、この仕事の醍醐味です。退院の時に感謝の言葉をいただいた際は、本当にうれしかったです。



回復期・2018年入職

理学療法士

患者様にもスタッフにも優しい

若い頃は「ケガや障害を治すにはどうしたらいいか」といったことを重要と考え、学び実践していました。ですが今は、機能が少しでも回復するにこしたことはありませんが、それよりも患者様やその家族がどんな人(人格や価値観など)で何を大事に生きているのかに気付き、そのお手伝いができたらと感じています。

3人の子どもを育てながら働いている私にとって、復帰後に時短がとれたり、有休が時間単位で使えたり、育児に対してスタッフの理解があったりすることは本当にありがたいです。当院の働くパパさんも、子育てに積極的な方が多いです。

PTを極めたい

PTはすごく面白いやりがいがある仕事です。勉強をすればするほど終わりのない世界だと痛感しますが、言い換えれば、ずっと進化し続けられる。その点に魅力を感じます。

勉強すればすぐに結果につながるとは限りません。簡単に結果が出ないからこそ、もっと勉強していこう。そうして努力が結果に結びついた時、患者様に喜んでもらった時、やりがいを感じます。

今後も回りハのPTとして、運動器と脳卒中を極めていきたいと思っています。具体的には認定資格取得を視野に入れ、活動していきたいです。



回復期・2002年入職

理学療法士